



中鳴リポーター

▼古代・中世コーナーでは、山王台、大館野、矢立廃寺、片山館、玉林寺各遺跡から出土したいろいろな遺物。
▼江戸時代以後のコーナーでは、大火などで消失したため、手持ちの資料が少なく、市民のかたがたから寄贈された貴重な資料。久保田(秋田)から矢立杉境までの路程を記載した6メートル余りの長さの路程絵図。当時の街並みの変遷を知る写真など。
▼先人顕彰コーナーには、安藤昌益、狩野良知、狩野亨吉氏の紹介資料。
▼民俗コーナーには、昭和初期ごろを設定した居間の模型に、農民、町民の生活民具や調度品類を適宜に配列
▼美術コーナーには、郷土の著名な画家や大館にゆかりのある画家などの大作絵画を数十点ほど。

▼工芸コーナーには、大館の伝統を誇る曲げ物類各種と超大型の曲げわっぱの盆及び桶や樽など秋田杉製品。全国各地の曲げ物紹介パネルなど。
▼そのほかに、元禄十七年の大館城絵図をはじめ、大館の四季と伝統行事の大パネル写真。戦後五十年を報道写真で見る近世の主な日本のできごとと、そのころの大館のできごとの一覧表。大館のバイパス道路網を予定路線も含め、航空写真に下ろした大パネルなども展示されています。
これら、豊富に展示中です。入館しますと時間も忘れ、古代から現代までたっぷり、心置きなくご覧いただけるものと思います。まだ参観されていないかたはぜひ一度参観してみてください。また、参観されたことがあるかたでも、展示内容が少しずつ変化しているようですので、再度ゆっくりとふるさとのことを学んでみてください。きっと満足されるものと思います。

参観者の反応はどうですか

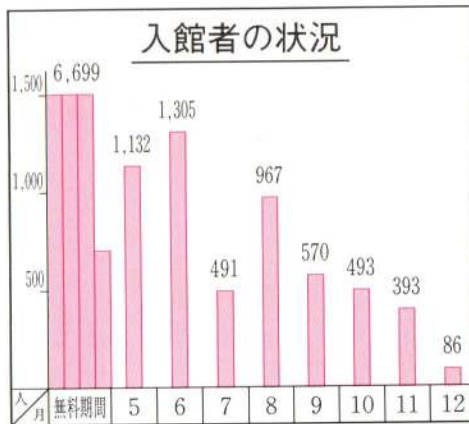
開館を記念して、無料公開を十一日間(開館からゴールデンウィークまで)行ったときは、六千六百九十九人の入館者(一日平均六百九人)があり盛況でした。その後時節柄とは思いますが、入館者の状況はグラフ(図参照)で見るとおりで、次第に減少傾向が続いています。オープンから十二月までの総入館者数は一万二千三百三十六人で、市民の六分の一が参観したことに相当します。冬を迎え、入館者が寒くないように、終日暖房を入れて開館中です。

現在進行中の事業は何ですか

- 一、来館者の通行上の安全を確保するため、広場南側の車道の拡幅と歩道の設置工事を進めていること。
- 二、4月のオープンを目指し、宇宙・地球・生命・力のことについて見たり、触ったりなど体験をとおして遊ぶことのできる、こども科学室の工事を進めていること。
- 三、展示館の一角に、ビデオ映写装置を取り付け中であること。

来年度以降の構想としては

- 一、埋蔵文化財資料や民俗資料など、これから展示するものや、展示を終えたものを保管しておく収蔵庫を本館西側に建設すること。
- 二、曲田・中山間の農道建設と南バイパス建設工事中に発掘された遺物の特別展示を行うこと。



- 三、博物館の情報を市民に提供するため「博物館だより」を発行、配布すること。
 - 四、将来の夢として、グラウンドを利用して、①子供たちがいろいろな活動を楽しめる縄文のムラ・平安のムラ・近世の農家などを建設すること。②沢水を引いて、田植えから収穫までを体験できる昔の水田を再現すること。③キャンプ生活をしながら昆虫の採集や観察、夜空の観察、土器や石器づくりをすることができるようになること。④先人たちが食べ物としたブナ、クリ、クルミ、トチ、ドングリなどの実がつく木の造林などを体験学習園の造成として進めること。
- さらに検討すべき課題として、樹海ドームと博物館との間のアクセス(連絡)道路の改修と、上原敏(歌手)の顕彰特別展のことなど、前進を喜ぶべき構想でした。
- 市民に早く公開してご覧いただきたいということで、準備期間が少ない中で開館したことから、不十分などところがあるのとあつたようです。そこで、徐々に充実発展させていこうと、スタッフ(職員)九人が知恵を結集しながら頑張っておるところでした。「自分にもスタッフには限界があるので、市民の皆さんのご理解とご協力をいただき、より一層親しまれる博物館につくり上げていこう」と日々努力を重ねられている熱意に敬意を表するとともに感謝申し上げます、今回の私のレポートといたします。